

[江別市] 施策達成度報告書

政策 04 安全で快適な都市生活の充実

施策 04 市街地整備の充実

主管課 都市計画課

施策の環境変化と課題

施策の環境変化 (24年度)	施策の課題 (24年度)
<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少などの社会経済環境の変化に対応していくためには、拡散型の都市構造から、生活に必要な施設機能が集約され、適切に配置される集約型の都市構造へと方向転換した取り組みが求められています。 ・少子高齢化の進展により、駅周辺に、人も施設も各種機能も集まったコンパクトな市街地整備が求められています。 ・中心市街地の活性化などの都市の再生が求められています。 ・公園を整備した当時から比べ、高齢化による利用者層の変化、地域交流の場など利用形態が変化しています。 ・市民及び市内来訪者等に、町名や各公共施設へのわかりやすい誘導の仕方が求められています。 ・駅周辺における市街地整備やバリアフリー化は着実に進めてきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路、公園、上下水道など都市基盤施設の老朽化が進行し、維持管理費などの増大が課題となっています。 ・自動車に依存した都市構造から、歩いて暮らせる都市構造への移行が課題となっています。 ・市街地の低利用地、未利用地における土地の有効活用や開発を促進する誘導策が求められています。 ・多くの公園は、整備当初の子ども中心で整備されたままで、利用者層や利用形態の環境変化に必ずしも対応できていない状況にあります。 ・わかりやすい街並みづくりを実現するための、標識等の計画的な設置が課題となっています。

施策の目的

機能的で魅力的な市街地やまち並みを形成し、市民が暮らしやすいまちづくりを目指します。

対象 (誰を対象とした指標か)

市街地

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

機能的で魅力的な街区やまち並みを形成する。

施策の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
機能的な「まち」と感じる市民割合	%	65.1	-	65.6	68.6	↗

施策の達成状況 (24年度)

機能的な「まち」と感じる市民割合は、ほぼ横ばいとなっていますが、駅のバリアフリー化の促進と憩いの場としての公園管理の充実に努めた結果や、今後は野幌駅の駅前広場など周辺整備の進捗に伴い、成果の向上が見込まれます。

施策事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	1,303,117	1,652,785	1,295,923
事業費(千円)	923,084	1,254,390	897,150
人件費(千円)	380,033	398,395	398,773

01 江別の顔づくり

基本事業の目的

都心地区（野幌駅周辺地区）の整備・充実を図り、より快適な市民生活と経済活動の集積に努めます。

対象（誰を対象とした指標か）

都心地区（野幌駅周辺地区）

意図（対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい）

市街地の整備充実を図り、快適な都心（中心市街地）を形成していく。

基本事業の目的をあらわす指標の動き（成果指標）

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
野幌駅周辺の利便性・快適性に満足している市民割合	%	55.5	-	66.1	65.8	↗
鉄道高架後の南北交通量	台/日	31,898	-	-	32,009	40,000
中心市街地の店舗延べ床面積	m ²	102,858	104,479	103,151	102,377	105,000

基本事業の達成状況（24年度）

野幌駅周辺の利便性・快適性に満足している市民割合は、H23、H24ともに初期値から約10%以上の成果指標の向上が見られます。この要因としては、鉄道高架開業後、「新駅舎完成」、「鉄道横断道路（中原通、旭通、7丁目通、自由通路、高砂地下歩道）」等の開通によるものと考えます。また、中心市街地の店舗床面積については、前年度に比べ面積の減少が見られますが、この要因については、駅周辺区画整理の建物移転に伴う取り壊しなど、事業の過渡期に生じたものですので、今後の事業進捗により店舗床面積は増加していくものと考えます。今後におきましても、区画整理や街路事業などの計画的な進捗管理を行い、更なる成果向上に努めます。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	832,464	1,159,984	819,729
事業費(千円)	683,983	999,664	658,609
人件費(千円)	148,481	160,320	161,120

02 計画的な土地利用の推進

基本事業の目的

計画的な市街地整備を進めるとともに活性化を誘導し、市街地の土地利用を向上させます。

対象（誰を対象とした指標か）

市街地

意図（対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい）

- ・市街地の土地利用率が上がる。
- ・市街地外縁部の利点を活かした土地利用を図る。

基本事業の目的をあらわす指標の動き（成果指標）

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
土地の有効利用率	%	72.0				75.1
市街地での新規着工戸数 【初期値(H19) 前期4年間 1,444戸(累計)】	戸(累計)		322	364	526	1,110以上

基本事業の達成状況（24年度）

土地利用の推進については、厳しい経済状況の中、市街地での新規着工戸数が鈍化の傾向が顕著ではありますが、昨年度に比べると回復傾向にあり、土地区画整理区域内を中心として、ゆっくりではありますが土地利用が進んでいるものと推察されます。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	36,965	44,461	50,156
事業費(千円)	4,459	4,381	9,876
人件費(千円)	32,506	40,080	40,280

03 安全で憩える公園の整備

基本事業の目的

市民との協働により公園再整備を進め、さらに市民管理の公園を増やします。また、安全で憩える公園を増加させます。

対象 (誰を対象とした指標か)

公園、地域住民

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市民と行政の協働により、安全で憩える公園を増加、リニューアル、運営する。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
憩いの場としての公園満足度	%	71.7	-	75.6	72.6	↗
市民と協働で管理している公園数	箇所	68	76	79	79	80

基本事業の達成状況 (24年度)

憩いの場としての公園満足度の指標は、初期値 (H19年度) 71.7%に対して、平成24年度が72.6%とほぼ横ばい傾向です。また、市民と協働で管理している公園数は、初期値 (H19年度) 68箇所に対して、H24年度が79箇所と増加しており、達成状況は上向きとらえています。今後におきましても、市民協働による公園再整備や公園管理等を行い、更なる成果向上に努めます。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	233,523	251,319	225,627
事業費(千円)	210,648	225,667	201,459
人件費(千円)	22,875	25,652	24,168

04 人にやさしく わかりやすい街並みづくり

基本事業の目的

美しい都市景観づくりや施設のバリアフリー化を進め、人にやさしい施設、わかりやすく景観に配慮した街並みをつくります。また、駅及び駅周辺、特別特定建築物などの関連整備を図り、利便性の高い機能的なまちをつくります。

「特別特定建築物」...不特定かつ多数の人が利用する建築物のうち、主として高齢の方、障がいのある方などが利用する際に移動等の円滑化が特に必要な建物(養護学校、病院、老人ホームなど)

対象 (誰を対象とした指標か)

市街地、駅及び駅周辺の建物等

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

人にやさしい施設、わかりやすく機能的かつ景観に配慮した街並みになる。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	22年度	23年度	24年度	後期目標値
まち並みがわかりやすいと感じる市民割合	%	66.3	-	68.5	68.9	↗
駅及び駅周辺においてバリアフリー等利便性の向上が進んでいると感じる市民割合	%	84.0	-	90.3	91.1	↗

基本事業の達成状況 (24年度)

まち並みがわかりやすいと感じる市民割合は横ばいの傾向にあるが、駅及び駅周辺においてバリアフリー等利便性の向上が進んでいると感じる市民割合は上昇傾向にある。市内主要駅のバリアフリー化は終了していることから、今後、成果指標の上昇を図るには、駅周辺のバリアフリー化の検証が必要と考えています。

基本事業コスト	23年度決算額	24年度決算額	25年度当初予算
トータルコスト(千円)	13,343	10,428	15,273
事業費(千円)	4,514	2,812	4,397
人件費(千円)	8,829	7,616	10,876